

科学技術活用し新時代の五輪に 開催成功へ「最後のご奉公」

森喜朗元首相は14日、2020年東京五輪組織委員会会長への正式な就任要請を前に共同通信社の東京きさらぎ会で講演し「最後のご奉公だ。命の限り助けようと思っっている」と五輪成功への強い決意を示した。森氏は同日、会長就任を受諾した。講演では、日本のロボット技術も活用した「新しい時代の五輪」を目指す述べた。安倍政権の外交に関しては、ロシアのプーチン大統領が今年秋に訪日するとの見通しを示した上で、日口首脳会談による北方領土問題の進展に強い期待を表明した。

青少年に夢、希望

組織委員会の会長就任を要請されれば、私なりの希望も申し上げてお受けしないといけない。最後のご奉公だと思っ、命の限り東京五輪の成功を助けようと思っっている。

今回の五輪招致では、オールジャパン態勢を目指してあらゆる団体に呼び掛けて評議会をつくり、私が議長になった。できるだけ多くの国民に五輪ムーブメントに参加してもらおうと秋元康さん、王貞治さんたちにも

評議会に入ってもらい、多くの人々に関心を持ってもらうようにした。安倍晋三首相から国民まで「何としても勝ち取ろう」という空気が前回と大きく違っていた。国際オリンピック委員会（IOC）総会前に文部科学省が調べたら、92%が五輪招致を支持するという結果だった。

投票前日に持ち寄った情報では47、48票は取れる予想だった。しかし、これで半分。さらに5票ぐらい上積みしようと、安倍首相も夜中の1時ぐらいまで電話をしたり、委員を訪ねたりし

た。クウェートの王族の一人が電話をくれたので行ってみると、「アジア連盟でまとめるから心配するな」と大体の票数を教えてください。いろんな動きがあるんだなと思っった。IOCの90票余りの4割は欧州。今回は欧州対策をしっかりとやって招致の決め手にした。

前回の1964年は、東京五輪によって日本が大きく前進していく大きな力が出てきた。若者が少なくなり、高齢者が多くなる日本の将来を考えると、五輪が青少年に勇気や希望を与え

ることは非常に大きな意味がある。今度の東京五輪は新しい時代の五輪だろう。例えば科学技術と「人間の戦い」をどう調和させていくか。日本のロボットももっと進んでいく。そのロボットをうまく使っていくことなども頭に入れた運営を考えなければいけない。

都知事選、五輪議論を

東京都知事選は、五輪をしっかりと準備して、日本や東京が世界に向けて約束したことを実行する大事な立場の人を選ぶ選挙だ。五輪を人質にとって原発をやめさせるかどうかを迫るのは、政治の道理から言っても筋が通らないと思う。

安倍さんを自民党幹事長に抜てきして、政治家としての道をつけたのは小泉純一郎元首相だ。自民党の人事の約束事を全部無視して幹事長にするとき、小泉さんから電話があつて「これから安倍君が森先生に相談に

行くが、止めないでほしい」と言われたことを覚えている。弟のように育ててきた政治家に大きなダメージを与えかねない、原発を争点にした都知事選をやるのが本当に政治家としていいのか。今は各党協力して挙国一致で五輪を迎えないといけない。その中で五輪をどうするかという選挙ならいい。

北方領土問題に進展も

安倍政権になっておおむね外交政策は成功していると思う。お父さんの安倍晋太郎外相の秘書官としてずっと一緒にいたか

ら、日本外交の基礎知識はかなり持っている。その間に何をやるのか考えていたのだろう。おじいさんの岸信介さんの影響も大きい。おじいさんが果たせなかったことをやるうとしていろいろだ。安倍さんの自民党のポスターは「日本を取り戻そう」と言っっている。元気を出して景気をよくして力を取り戻そうという意味ではなく、戦後レジームからの脱却を一番のテーマにしていると思っっている。

森内閣では、私の身体をがんばらばいっていると分かっていて、誰もやらなかったことを一生懸命に種まきし、後で必ず実るようにと考えた。首相として最初に着手したのはインドに行ったことだ。初めて首相としてアフリカに行ったのは私だ。そのとき一緒にやっていたのは官房

副長官だった安倍首相だ。安倍首相はインド、アフリカと大きな関係を結ぼうとしており、私も喜んでいる。今秋おそらくロシアのプーチン大統領が来日して、日口交渉が大きな局面を迎える。安倍首相が昨年4月にプーチン大統領と最初の公式首脳会談を行った2カ月前、私はロシアで大統領に会った。まずは安倍首相と政治家を理解してもらい、交渉を進めていく中で個人的な信頼関係を構築してほしいと伝えた。二つ目は日口協力の将来的な可能性をお互いに探り、話し合っっていくこと、もう一つは北方領土の交渉をすること、この3点をプーチン氏に申し上げた。自民党総裁の再選はあり得るだろうし、プーチン氏の任期は6年ある。両首脳ともあと5、6年は政治指導者を続ける可能性があり、この間に問題を解決してほしいとお願ひした。

プーチン氏は北方領土に関して「引き分け論」を展開したところがある。真意を聞いたところ、「勝ち負けなし。日本もロシアも受け入れられる案なら引き分けだ」と。ロシアは4島全部にこだわらないし、2島と2島に分けて考えることに反発をしてるわけでもない。お互いが譲るところは譲り、具体的な話はどう詰めるかということだ。両首脳には、首相が外務省に案をつくれと訓令を出し、大統領もロシアの外務省に訓令してでも具体案をまとめるべきだと申し上げてある。秋に話し合える中身をどこまでまとめられるか。安倍首相とプーチン氏が具体的な落としどころを決断しないとイケない。